

本 覧 寺 杼 貝 (xx), 2017

和歌山県白浜町の海岸でのハチジョウダカラ
(腹足綱、タカラガイ科) の打ち上げ

久保田 信

Shin Kubota: Cypraea mauritiana (Gastropoda,
Cypraeidae) washed ashore at a coast of Shirahama Town,
Wakayama Prefecture, Japan

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

ハチジョウダカラ Cypraea mauritiana Linnaeus, 1758
は腹足綱タカラガイ科の大型種で、インドー西太平洋の熱
帯から温帯にかけての岩礁や珊瑚礁に生息し、他種と同様
に雌は産卵後に卵が孵化するまで保護する(小林, 2000;
池田・淤見, 2007)。本種は和歌山県下では御坊市から串本
町まで散発的に記録されているものの(前岩, 2005, 2011,
2012; 船本, 2011; 田中, 2013)、白浜町沿岸では記録があ
まりなされていない(小山, 1993; 久保田・小山, 2002; 新
稲・久保田, 2009)。今回、白浜町の海岸で本種を京都大学
瀬戸臨海実験所が主催する公開臨海実習中に学生が発見し

たので報告する。

2017年3月29日の正午頃の干潮時、白浜町内の対の浦の磯で1個体の本種亜成体の死殻（殻長 78 mm）が発見された（図1）。光沢があり、新鮮なものであり、腐肉は全く無く腐臭もしなかった。その貝殻は学生が保持している。

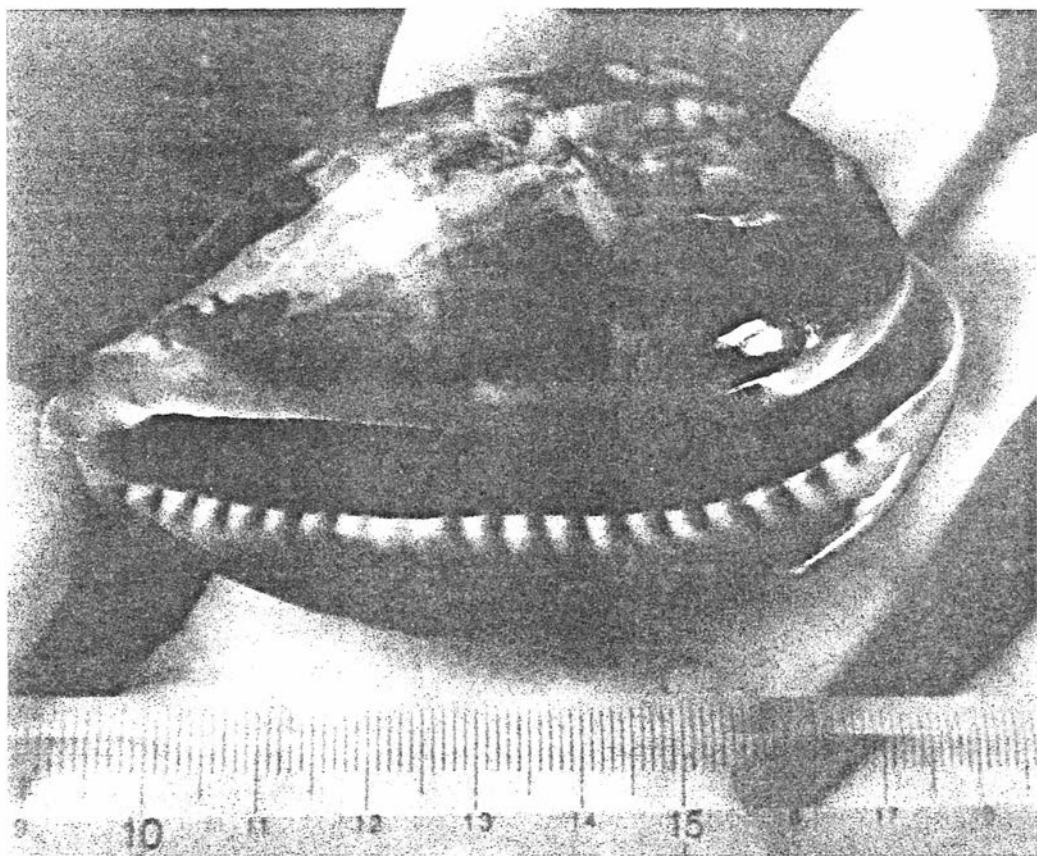


図1 和歌山県白浜町内の対の浦の磯で2017年3月29日に発見されたハチジョウダカラ亜成貝の死殻。

本種の出現状況については2004年1月より2009年8月までの5.5年間、和歌山県西牟婁郡白浜町の2箇所の海岸

で調査しとことがある。久保田信が田辺湾口付近の海岸、即ち京都大学瀬戸臨海実験所”北浜”と番所崎で、新稲一仁が外海に面した鴨居漁区で調査した（新稲・久保田，2009）。前所では磯浜への漂着物調査および岩礁海岸で水深数 m までのシュノーケリング調査を、後所では岩礁海岸の水深 1 m のタイドプール壁面を中心とした生貝の探索および磯浜での漂着調査を実施した。その結果、本種は冬季に少数しか発見できず、その内で生体は稀で、未成熟個体ばかりが外海に面した海岸から発見された。このことから、本種は流れの速い場所を好むと推察され、池田・淤見（2007）の「本種は波あたりの強い低潮線直下に多産し、10 m 以浅に生息すると記している」との言明と一致した。なお番所崎の磯で、2002 年 12 月 22 日の午後の干潮時、1 個体の生きた亜成貝が発見された（新稲・久保田，2009）。その後も本種は 2017 年 4 月末に至るまで番所崎や京都大学瀬戸臨海実験所北浜では全く発見されていないのでこの地区では非常に稀である。

引用文献

- 池田 等・淤見慶宏：2007. in ”タカラガイブック”，10，16・17，東京書籍，東京．
- 船本兼一．2011．近況採集報告．本攪寺杼貝，(62)：21-24．
- 小林安雅．2000：巻貝の仲間． in ”ヤマケイポケットガイド⑩海辺の生き物”，109，山と溪谷社，東京．

小山安生．1993：和歌山県のタカラガイ科貝類．南紀生物，
35(2)：117-123．

久保田信・小山安生．2002：番所崎，特に“北浜”（和歌山
県白浜町）へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録（1）．
南紀生物，44(1)：69-76．

新稲一仁・久保田信 2009．和歌山県白浜町の海岸へのハ
チジョウダカラ *Cypraea mauritiana* (腹足綱，タカ
ラガイ科) の出現．南紀生物，51(2)：144-145．

前岩 崇．2005．潮岬の貝異変．本攪寺杼貝，(46)：26-27．

前岩 崇．2011．串本町双島採集記．本攪寺杼貝，(64)：
24．

前岩 崇．2012．串本町双島採集記．本攪寺杼貝，(67)：
25-36．

田中真人．2013．オゴクダのタカラガイ類．本攪寺杼貝，
(70)：5-6．